

立命館大学技術士会 第15回総会

議 案 書

R

令和6年(2024年) 5月25日

(一社)中央電気倶楽部 215号室

13:00 ~ 14:00

立命館大学技術士会第15回総会議案

<第1号議案>

立命館大学技術士会第14期(2023年4月1日～2024年3月31日)事業報告 1

<第2号議案>

立命館大学技術士会第14期決算報告および監査報告 3

<第3号議案>

第15期事業計画(案)および予算(案) 5

<第4号議案>

第15期役員人事(案):敬称略(2024年度) 8

<第1号議案>

立命館大学技術士会第14期(2023年4月1日～2024年3月31日)事業報告

(1) 会員拡大と組織強化

当会の本会員および準会員並びに賛助会員の現状確保と新規入会者を募ることは、組織の基盤強化を図る上で不可欠なことである。新規本会員は3名増えたが退会、物故者等で前期161名から2名減って159名に、準会員は2名増えて7名に、特別会員1名および賛助会員5社は変わらず結果総会員数は前期同様の172であった。今後も引き続き、第二次試験合格者の情報入手および建設会並びに建立会等のOB会に対し、当会の活動情報を発信して会員拡大に努めることとする。

また、組織の運営体制については、この第14期に会則を改定して4名の副会長(会則は6名程度)を倍の8名(会則は10名程度)にして、①企画、②渉外、③窓口、④広報・記録の各総括責任者を2名体制で担い、よりその活動は機能的に向上した。幹事職も会則30名以内から40名以内に改定し、結果5名の幹事を増員して28名で活動した。

また、第9期から加入した「大学技術士会連絡協議会」の2023年度総会は、少し開催がずれ込み2024年4月6日、早稲田大学西早稲田キャンパスにおいて、オンライン併用にて開催された。当会からは、会長を含む2名がオンラインにて参加した。なお、現在の協議会加盟校数は36校である。

(2) 技術士試験受験への支援

令和5年度技術士第二次試験受験対策講習会は、2023年3月11日に1回目の受験ガイダンスを行い、受講者は1名であった。その後、4月1日に2回目の受験ガイダンスを実施し、受講者4名の内、1名が前年度試験の合格者であったことから、その合格体験談を語ってもらった。3回目5月13日の受験講習会には3名の受講者が参加し、4回目6月10日の受験講習会時の受講者は1名であった。

この内、筆記試験合格者は2名であった。その後、11月11日実施した口頭模擬試験の受講者は、1名参加、追加した11月25日にもう一人、口頭模擬試験を実施した。結果、合格発表日の令和6年3月8日には、口頭模擬試験受講者2名共、合格に導くことが出来た。合格者の部門は、建設部門(建設環境)、総合技術監理部門(機械-加工・生産システム・産業機械)であった。

R6年度の技術士第二次試験受験対策講習会は、2024年3月16日に1回目の受験ガイダンスを行い、その際の受講者は3名(内1名はWeb参加)で、当会が作成した受験対策講習会資料に基づき受験指導を行った。

(3) 立命館大学への支援

大学の環境・都市系学科の授業を活用して、後進者である学生達に技術士制度の説明や各職域の業務内容について講義を行った。毎年、大学から当会に対し講師派遣の依頼や相談事がなされ、その存在価値は高まっている。

① 令和3年度から環境都市工学科4回生の『技術者実務演習』(前期4コマ)に対し、引き続き幹事等2名を派遣し、授業担当講師として講義している。引き続き令和5年度も技術士制度や第二次試験の問題解説、実社会での環境に係る実務紹介などの講義を行った。約25名の受講生は、いずれも目的意識を持つ優秀なJABEEコースの学生達で、真面目にしっかり聴講してくれている。

② 本学、橋本教授から依頼を受け、6月5日にBKCにて環境都市工学科1回生に対し、『めざせ！技術士』と題し、3名の幹事および1名の会員が対面にて90分の授業を行った。最初に技術士制度や技術士試験について説明した後、公務員、建設コンサルタント、ゼネコン技術士の講師がそれぞれの立場で職務と役割について講義した。講義資料は、昨年度同様にクイズ形式を取り入れ、学生達の関心を引くよう工夫された。学生達にとって、技術士とは何か、技術者としての倫理観の醸成およびキャリアアップの一助になったものと思われる。

③ 本学、惣田教授から依頼を受け、7月20日にBKCにて環境都市工学科3回生に対し、『第14回立命技術士懇談会』と題し、2名の幹事および2名の会員が対面にて90分の授業を行った。学生達にとって、実社会の業界毎の業務内容を聴講したことで、今後の就職先を検討する足掛かりになったものと思われる。

(4) 技術講演会および親睦会

会員相互の資質向上の一環として、2023年6月24日の総会時にWEB併用にて二つの特別講演を行った。講演の一つ目は、本学理工学部環境都市工学科の岡井有佳教授に、「パリにおける人中心の都市空間への取り組み」と題して、20年前から行われてきたパリでの車から人中心への都市空間の再編について、ご講演いただいた。

二つ目の講演は、株式会社A.L.I.Technologies執行役員兼営業部長の伊藤英氏に、「ドローン前提社会の到来」～ドローン・エアモビリティの過去・現在・未来～と題して、ドローンに関するハード・ソフトの技術革新と共に、2025年大阪万博でデビュー予定の”空飛ぶクルマ”の動向について、ご講演いただいた。

なお、総会および講演会終了後、中央電気倶楽部食堂にて講演者を交えて、和やかに親睦会が開催された。

(5) 会員相互の交流・懇親と技術レベルの向上

会員相互の親睦を図るため、2023年11月11日、「第14回交流・懇親会」を中央電気倶楽部で行った。参加者は来賓1名含む21名であった。来賓として、本学理工学部環境都市工学科の塩見教授をお招きし、当会および参加者との親睦が図られた。なお、交流・懇親会参加費の一部を本学の”未来人財育成基金”に寄付した。併せて交流懇親会時に会員による以下の3小講演を行った。

- ① 三好 昌子 会員 「守山市の地域公共交通の取組について」
- ② 市井 大生 会員 「コロナ禍に対応した浄水場見学動画」
- ③ 糸田川廣志 会員 「線状降水帯降雨はなぜ怖いのか？」

また毎年、会員の技術レベルの向上のため、日頃の科学技術の研究成果や技術報告をはじめ、自由闊達なご意見や近況報告について会報誌への投稿をお願いしている。第14期は、第7号を2023年11月、当会ホームページ上で発行した。会員の声として、自由テーマ6編、技術レポート2編、新会員紹介として2名が寄稿された。来期も引き続き、会員相互のコミュニケーションツールとして、活用していただきたい。

(6) 会計基金の充実と、事業企画の推進

2014年(平成26年)3月から、①技術士受験支援基金、②各種講演会・交流企画基金、③大学支援・共同企画基金を設け、将来の各事業企画の有効な実施が図れるよう、予算を備えている。

本基金の趣旨は上記に記すところであるが、過去の阪神・淡路大震災発生後に、あらゆる組織の活動が長期にわたり機能停止に追い込まれた苦い経験や、さらには来る南海トラフ大地震をはじめ、この度の新型コロナ感染症等の疫病を含む複合災害を見据え、有事の折には本基金が会の活動を停止することなく有効に活用できるものとする。第14期の予算計画では、この3事業の活動基金として5万円を考えていたが、来期への繰越金額に鑑み、今回は定額貯金を行うことは取り止めた。

結果、現時点での基金の総額は、85万円となっている。

<第2号議案>

立命館大学技術士会第14期決算報告および監査報告
(2023年4月1日～2024年3月31日)

項目	予算	決算	摘要
(1) 収入			
①会費等収入	150,000	152,000	個人会費
	50,000	50,000	賛助会費
	100,000	94,018	その他(お祝い+会費寄付等)
②講習会収入	20,000	11,000	講習会受講参加費
③未来人財育成基金	20,000	20,000	
④その他	26,539	1,656	懇親会残金等
今期計		328,674	
⑤前期繰越金	83,461	83,461	前期残高合計
合計	450,000	412,135	
(2) 支出			
①会員技術研修等支援活動費	150,000	144,401	
②大学教育支援活動費	20,000	13,500	
③技術士試験受験支援活動費	150,000	110,000	支援活動費、講習会場費
④その他活動費	30,000	23,000	未来人財育成基金(¥20,000)、広告費等
⑤通信事務費	15,000	7,975	
⑥会費振込手数料	5,000	5,341	
上記計	370,000	304,217	
⑦大学支援・共同企画基金	50,000	-	3活動基金
⑧予備費	30,000	-	
今期計	450,000	304,217	
収入額		412,135	
支出額		304,217	
収支合計＝		107,918	・・・次期繰り越し金額
監査報告			
立命館大学技術士会第14期会計内容につき、通帳、金銭出納簿、領収証および入金書類を監査した結果、適正に処理、記載されていると認める。			
令和 6年 4月 15日		立命館大学技術士会	
		会計監事	山下 雅己 
		会計監事	兼塚 卓也 

積立基金会計（ゆうちょ銀行）

貯金名		預け年月日	預け金額	払戻(開始)年月日	年利率 %
定額貯金①	3活動基金	H26-03-27	¥150,000	H26-09-27	0.04
定額貯金①	3活動基金	R6-03-27	¥150,000	R6-9-27	0.002
定額貯金②	3活動基金	H26-03-27	¥150,000	H26-09-27	0.04
定額貯金②	3活動基金	R6-03-27	¥150,000	R6-9-27	0.002
定額貯金③	3活動基金	H27-03-30	¥150,000	H27-09-30	0.04
定額貯金④	3活動基金	H28-03-29	¥100,000	H28-09-29	0.01
定額貯金⑤	3活動基金	H29-03-30	¥100,000	H29-09-30	0.01
定額貯金⑥	3活動基金	R3-03-30	¥100,000	R3-09-30	0.002
定額貯金⑦	3活動基金	R4-03-28	¥50,000	R4-09-28	0.002
定額貯金⑧	3活動基金	R5-03-31	¥50,000	R5-10-01	0.002
合計			¥850,000		

* 3活動基金とは、受験支援基金、講演交流基金、大学支援基金を表す。

* 定額貯金①および②は、R6年3月27日満期につき、同日に再度預け直した基金である。

* 預入の日から10年経過後、自動的に払戻金の全部が通常口座に振り替えられます。

＜第3号議案＞

第15期事業計画(案)および予算(案)

＜事業計画(案)＞

(1) 会員拡大と組織強化

当会本会員の高齢化が進んでいるなか、組織の基盤強化と安定化を図るために本会員はもとより準会員、並びに賛助会員についてその拡大を図ることは重要である。引き続き、当会の活動趣旨に賛同してくださる卒業生等への積極的な働きかけを行い、支援を得たいと考える。

今後は引き続き、役員・幹事のネットワークにより新規会員の拡大を継続的に図ることとする。

また、第10期から事務局の役割を4つ(①企画、②渉外、③窓口、④広報・記録)に区分して活動してきた。前期に会則を改定し、8人の副会長を各総括責任者として、その他の幹事もそれぞれに配属して、円滑かつ効率的な活動を目指してきた。今期もこの体制を維持、継続していきたい。

併せて、会計を兼務する幹事長を補佐する目的で前期に新設した副幹事長には、今後はさらにその役割を担ってもらう予定である。

なお、36校が加盟する「大学技術士会連絡協議会」については、各大学が抱える活動上の共通の課題や必要な情報共有を図るため継続して加入することとし、年次総会が開催されればWeb参加を視野に入れて参加する予定である。

(2) 技術士試験受験への支援

2024年3月16日に開催した第1回受験ガイダンスに続き、4月6日には2回目の受験ガイダンスを実施し、受験申込書(実務経験証明書欄や詳述論文)の添削指導および合格体験者の勉強方法の紹介等を行った。また、5月11日、6月8日の受験講習会時には、7月14日、15日の本試験日を見据えて、受講者が用意する論文の添削に重点を置いて指導すると共に、模擬試験も行う予定である。

なお、第二次筆記試験の可否通知は10月に予定されているため、当会の模擬口頭試験は、中央電気倶楽部にて11月9日に予定している。

(3) 立命館大学への支援

昨年に引き続き、環境都市工学科1回生を対象に6月10日、BKCにて『めざせ！技術士』と題して技術士制度や技術士試験の説明等を行い、技術士が日本の科学技術における最高位の国家資格であることを学ばせる。また、前年度同様、講師は幹事および一部会員だけに留まらず、広く全会員を対象に公募した。

さらに、環境都市工学科3回生に対して、7月18日、『第15回立命技術士懇談会』を開催し、当会の幹事や会員が、公務員、建設コンサルタント、ゼネコンのそれぞれの立場で技術士の職務と役割について対面授業にて講義する予定である。

なお、上記二つの講義は、本学建設会および(公社)日本技術士会近畿本部の後援のもと、実施する予定である。

また、令和3年度から環境都市工学科4回生の『技術者実務演習』(前期4コマ)に対し、授業担当講師として幹事等2名を派遣しているところであるが、今年度も同様に実施される旨、シラバスに組み込まれている。授業は、昨年度同様、技術士制度や第二次試験の問題解説、実社会での環境に係る実務紹介などの講義を行う予定である。

本授業は5か年の契約のため、来年度(令和7年度)が最終年度になる予定である。

(4) 技術講演会および親睦会

これまで総会時には、本学理工学部先生や異分野を含む外部の講師を招いて特別講演を企画してきた。今年度も中央電気倶楽部にてリアルおよびWEB併用による2講演を企画している。

一つ目の講演は、株式会社三隆国際気象の代表取締役、三橋功治様に「住民に対して行っている気象/防災講演について」(住民の命と財産を守るために)と題して、ご講演いただく予定である。

二つ目の講演は、本学文学部人文学科地理学専攻の矢野桂司教授をお招きし「バーチャル京都による空間人文学の展開」と題して、ご講演いただく予定である。

なお、講演後、中央電気倶楽部大食堂にて講演者を交えて親睦会を開催する。

(5) 会員相互の懇親と技術レベルの向上

当会の活動において、会員相互の親睦の機会が限られているため、令和5年度から受験対策講習会時の講師や、大学支援の一環で講義している「めざせ！技術士」および「立命技術士懇談会」時の講師について、広く会員から公募することにした。結果、現時点では限られた人数ではあるが、講師として参画していただき、こうした活動を通じて更なる親睦を図りたいと考えている。

また、会員相互のコミュニケーションツールとして発行している会報誌であるが、今年度も11月頃、第8号の発行を予定している。会員への投稿呼びかけは、当会ホームページにて7月頃に募集する予定である。

また、毎年11月に実施している交流・懇親会は、同月9日、中央電気倶楽部にてその開催を予定しているが、会員に対して技術発表や最新の事業紹介等の場を提供し、技術レベルの向上と相互の幅広い交流、懇親を図りたいと考えている。

(6) 会計基金の充実と、事業企画の推進

本基金は受験支援、講演交流、大学支援の3つの活動を企画支援するため、2014年(平成26年)3月以降、積み立てを行ってきた。2020年(令和2年)1月に国内で新型コロナウイルス感染者が確認されて以降、一連のリアルな活動は自粛してきたところであるが、現在では2類相当から5類に移行したこともあり、その趣旨に則った事業を検討・企画し、推進していくことも可能になったと考える。

また、第14期の報告においても述べたが、有事の災害等が発生した場合には、会の活動資金として有効に活用することも視野に入れている。併せて今後、既会員の高齢化が進み、かつ新規入会者が頭打ちとなった状況下でも、向こう2年間は当会の機能が停止することなく活動できるよう、基金は総額100万円を目途にその充実を図りたいと考えている。

この基金について、前期(第14期)は予算的に厳しかった関係で取り止めたが、第15期の予算(案)では、5万円を活動基金として計上している。

<予 算(案)>

① 収 入

(1) 会費等	本・特別・準会員	150,000	
	賛助会員	50,000	
	その他(お祝い+寄付等)	100,000	
(2) 講習会等		10,000	
(3) 未来人財育成基金		20,000	交流・懇親会参加費より
(4) その他		2,082	
(5) 前期繰越金		107,918	
合 計		440,000	

② 支 出

(1) 会員技術研修等支援活動費		160,000
(2) 大学教育支援活動費(支援活動派遣費・協力費含む)		20,000
(3) 技術士試験受験支援活動費(支援活動派遣費・協力費含む)		120,000
(4) その他活動費(未来人財育成基金、広告費等)		25,000
(5) 通信事務費		10,000
(6) 会費振込手数料		10,000
上記計		345,000
(7) 大学支援・共同企画基金(3活動基金)		50,000
(8) 予備費		45,000
合 計		440,000

積立基金会計(ゆうちょ銀行)

預金名	預け年月日	預け金額	払戻(開始)年月日	年 利率	%
定額貯金① 3活動基金	R6-03-27	¥150,000	R6-09-27	0.002	
定額貯金② 3活動基金	R6-03-27	¥150,000	R6-09-27	0.002	
定額貯金③ 3活動基金	H27-03-30	¥150,000	H27-09-30	0.04	
定額貯金④ 3活動基金	H28-03-29	¥100,000	H28-09-29	0.01	
定額貯金⑤ 3活動基金	H29-03-30	¥100,000	H29-09-30	0.01	
定額貯金⑥ 3活動基金	R3-03-30	¥100,000	R3-09-30	0.002	
定額貯金⑦ 3活動基金	R4-03-28	¥50,000	R4-09-28	0.002	
定額貯金⑧ 3活動基金	R5-03-31	¥50,000	R5-10-01	0.002	
定額貯金⑨ 3活動基金	R7-03-31	¥50,000	R7-10-01	0.002	
合 計		¥900,000			

*3活動基金とは、受験支援基金、講演交流基金、大学支援基金を表す。

*定額貯金⑨が、第15期の基金予定額である。

*預入の日から10年経過後、自動的に払戻金の全部が通常口座に振り替えられます。

<第4号議案>

第15期役員人事(案) : 敬称略(2024年度)

役職名	氏名 (敬称略)	卒業年	部門
会長 (1名)	土屋 光弘 留任	S 58	建設
副会長 (10名程度)	楠本 博 留任	S 54	建設
	日室 伸一 留任	S 54	上下水道、建設
	中井 稔 留任	H 02	建設
	星野 和之 留任	H 03	建設
	太田 和夫 留任	H 05	建設
	今道 洋 留任	H 13院	上下水道、建設
	橋口 正悟 留任	H 15院	建設
	寺尾 庸孝 留任	H 15院	建設
幹事 (40名以内)	土屋 光弘 留任	S 58	建設
	西村 敏 留任	S 54	上下水道
	楠本 博 留任	S 54	建設
	日室 伸一 留任	S 54	上下水道、建設
	吉田 順一郎 留任	S 55	建設
	久後 雅治 退任	S 57	建設
	江頭 慶三 新任	S 58	建設
	野村 嘉樹 留任	S 60	上下水道
	往西 浩司 留任	S 62	建設
	中井 稔 留任	H 02	建設
	星野 和之 留任	H 03	建設
	畑中 章秀 留任	H 05院	建設
	青山 裕之 退任	H 05	建設
	太田 和夫 留任	H 05	建設
	深津 真彦 留任	H 07院	建設
	今井 豊 留任	H 08	上下水道
	小島 真理 留任	H 09	建設
	坂本 尚久 留任	H 11	機械
	春田 健作 留任	H 12院	建設
	菊池 博之 留任	H 12院	機械
	北岸 真佳 留任	H 12	上下水道
	今道 洋 留任	H 13院	上下水道、建設
	三好 昌子 新任	H 13院	建設
	長谷川 真也 留任	H 13	農業、建設
	北口 和雅 留任	H 13	上下水道
	玉木 政人 留任	H 13	建設
	橋口 正悟 留任	H 15院	建設
	寺尾 庸孝 留任	H 15院	建設
	人羅 真一 留任	H 16	建設
	服部 亘啓 留任	H 17院	建設
幹事長	西村 敏 留任	S 54	上下水道
副幹事長 (2名程度)	太田 和夫 留任(兼務)	H 05	建設
監事 (2名)	山下 雅己 留任	S 53	建設
	兼塚 卓也 留任	S 57	建設

幹事および監事、以外の役員

役職名	氏名 (敬称略)	摘要
顧問	山田 淳 田中 伊三雄 糸田川 廣志	
相談役	奥村 一 岸田 順三 渡邊 郁夫 大森 秀高	